



Vol.5 (1)&(2)合併号 2024. 9. 6.

(発行)NPO 大学院連合

メンタルヘルスセンター

540-0012 大阪市中央区谷町 1 丁目 6-4

天満橋八千代ビル 10 階 DE 号室

Tel.06-6755-4458 Fax. 06-6755-4459

巻頭言

コンプライアンス違反が多発する社会 —状況の悪化を憂える—

代表理事 三戸 秀樹

1. はじめに

近年の目にあまる不正事案は、2022 年 11 月のしんぶん赤旗日曜版の報道からはじまった自民党派閥における政治資金パーティーの不正報告（裏金問題）、2023 年 4 月の内部告発によるダイハツ工業におけるほぼ全ての生産車の認証試験不正、そして中古車センター・ビッグモーターにおける不正などがあった。

自動車製造過程におけるコンプライアンス（法令や社会規範の順守）違反は、限られた会社だけの問題ではなく、わが国のすべての自動車製造会社において共通して起きていると指摘された。自動車製造業における基準を無視した手抜きは、三菱自動車、スバル自動車、ダイハツなどの指摘にはじまって、限定的に起きているかのような印象であった。ダイハツ親会社のトヨタは、残念至極みたいなのを言っていた。しかしその実、トヨタ自身の内部でもおきていることが後日に指摘されたのだ。世界の工場とまで称されたわが国製造業における高い品質保証を危うくするものである。中古車センター・ビッグモーター問題は、損害保険会社まで飛び火し、保険会社における政策保有株のあり方にまで言及され、廃止への指導が金融庁から入った。

コンプライアンス違反とは、意図的な法令違反や社会規範・倫理に反する行為を指している。帝国データバンクは、「架空の売り上げの計上や、融通手形などの粉飾をはじめ、過積載や産地偽装などの業法違反、所得・資産の隠蔽などの脱税などのコンプライアンス違反が判明した企業倒産を“コンプライアンス違反倒産”」と定義している。そして、2005 年から集計結果を公表し、2005 年は 74 件あったが、2022 年度のコンプライアンス違反企業の倒産動向調査では、過去最多の 300 件となった。この 300 件を業種別にみると、サービス業、建設業、ならびに運輸・通信が顕著であった。業種細分類別でみると、サービス業は老人福祉業が多く、運輸・通信業では貨物輸送が半数を占めていた。

違反内容類型でみると、①資金使途不正がもっとも多く、次いで②粉飾が多くみられ、さらに③業法違反と続いた。粉飾について業種別にみると卸売業が最も多く、架空取引や融通手形などの使用ケースが多かった。業法違反では、運輸・通信業が突出して多く 6 割を越えた。ここにおける現実は、長時間にわたるハンドル時間を示す過重な運転労働がみられ、運送業における 2024 年問題が云々されたことは、周知の事実である。

2. 新聞報道から得たコンプライアンス違反

わが国社会の随所におけるコンプライアンス違反が気になりはじめ、2017 年 12 月以来、新聞報道された記事を切り抜き、その内容をファイリングし始めた。そして記事内容を、一行記載に集約した一覧表にまとめていった。筆者は、在職時代の一時期、就職部長をしていたので、このような資料は、大学を卒業して就職する若者へ向けて、企業選択の際の基礎資料になるのではないかと考えた。収集した新聞報道データのまとめは、次のとおりである。

製造業における公的基準の無視事案が多発した。自動車製造業では、少し前に三菱自動車、スバル自動車、ダイハツ、日産自動車、スズキ自動車、ヤマハ発動機、日野自動車における不正が指摘された。さらに、トヨタにおける車検違反の事案。そしてついに、ダイハツのロッカー、プレイズにおける不正にはじまる驚くべき違反の数々が明るみに出た。製造現場における検査データの偽造では、宇部興産、日立化成、中山製鋼所、クボタ、ユニチカ、日立金属、三菱電機など。ゴム関係では防振ゴム不正は、三菱マテリアル、東洋ゴム、KYB、川金ホールディングス、三菱電機子会社(トーカー)、東レなどがあつた。

金融系機関における違反では、三菱UFJモルガン・スタンレー、第一生命、日本生命におけるインサイダー取引ほかがあつた。カルテル・談合違反はさらに多く、高島屋・阪神阪急・近鉄・京阪・そごう、伊藤忠・ツカモトユーエス、大林道路ほか大手8社、日本アルコン、クーバービジョンジャパン、シード、前田道路・大成テックほか6社、東洋製缶・北海製缶・ユニバーサル製缶、クラレ・水ing・大阪ガスケミカル、セコム・総合警備保障ら8社、メディセオ・アルフレッサ・東邦薬品・スズケン、大成・鹿島・大林・清水建設などがあつた。

教育機関等における違反では、ベネッセ、京都大学霊長類研究所、国立循環器センター・大阪大学医学部、近畿大・医学部・法医学、私立幼稚園連合会、さらにこの教育機関等におけるハラスメント・いじめ事案も多発しているとだけ言っておこう。

芸能系における違反では、ジャニーズ、宝塚歌劇、芸能人たちにおける覚醒剤・麻薬等の摂取事案の多発。政治家たちのコンプライアンス違反では、政務調査費や裏金問題など引きも切らない。大物国会議員たちによる裏金問題が浮上して、政治倫理審査会では知らぬ存ぜぬの連呼に終始する有り様だ。

3. 広域にわたる倫理観の低下(例: 高速道路における照明光源問題)

事業所、それも巨大な半官半民の事業所における倫理観欠如の状態、ならびに御用学者の存在を経験した。今では関係者の多くが鬼籍はいったので、心理屋をして経験した具体例のひとつをここに報告しておく。

研究者の仕事をスタートさせて、研究結果を学会発表し、その成果を社会的還元しはじめた初期にこれは起きた。思い出される事案は、道路照明として、それ以前から多用されてきたナトリウム灯(以下、Na灯)が、道路照明光源として不相当であると解する研究結果発表に際して起きた。

人類は何十万年ものあいだ、太陽光の光源下で活動をしてきた。この太陽光は可視光線として7つの光に分けることが出来る。いわゆる、赤・橙・黄・緑・青・藍・紫の各光の集合体から成つた。その昔、ニュートンが、プリズムを使って虹色に見せた有名な実験は衆人の知るところである。そして赤色が可視光線のなかでは一番波長が長く、可視光線のなかで紫が一番短い波長である。見えない光なのだが、赤色よりももっと長い光を赤外線と称し、紫色よりももっと短い波長の光を紫外線と称した。太陽光下での視覚世界は、光が眼に入ってくると、瞳孔を通過し、水晶体で屈折し、硝子体を通過して網膜へ到達する。そして網膜上には光が当たると反応する2種類の視細胞(錐体細胞、桿体細胞)が張り巡らされている。外界のモノの姿の投影像の境目は、長波長から短波長を含んだ光は、屈折率が異なるので、当然境目に色にじみが生じる。この色にじみと遠近感の関係については、これまで注目されてこなかった。

人類史の過去歴史には、単色光下における視環境経験はほとんどなかった。ところがエジソンが1879年に電灯を発明して以来、人工照明下での視環境が少しずつ増えはじめた。しかしながら白熱電球や蛍光灯などは、単色光源ではなく、かなりの波長幅を有する光源であつた。1932年にNa灯がオランダのギレス・ホルスト Giles Holst によって発明されたが、ナトリウム蒸気中のアーク放電による発光を利用したランプで、低圧Na灯は消費電力35ワットという省エネ光源であつた。しかしながら、光源は589ナノメートルという単色の輝線スペクトルである。

1963年にわが国初の高速道路・名神高速道の部分開通があった。この折のトンネル照明の検討研究では人型に切り抜いたベニヤ板を人に見立てて、トンネル内の見通し距離の検討が行われた。当時の自動車は、排ガス規制がまったくなかった時代で、煤煙をもくもくと排出する車であった。この煤煙が充満するトンネル内での視距離測定が行われ、空中の煤煙という障害物にもかかわらず透過可能である長波長光源のものが採用されることになった。この結果、低圧 Na 灯採用へとつながった。照明光源としては、同時に省エネルギーの光源でもあった。また、単色光源であるという演色性問題は、交通標識の色がよく分からなくなるという欠点も有した。車線区分の黄色は、はみ出し禁止の意味をもち、それは同時に追い越し禁止区間の意味も有した。しかしながら光源が黄色の Na 灯では、車線区分が白色なのか黄色なのかの区別はほとんど不可能であった。

Na 灯下の見えの研究の第 1 報は、先輩の I 先生との連名で、「トンネル内照明下における見えの研究」と題して、第 17 回人類動態学会(仙台)で 1982 年 6 月に発表をした。発表内容は、Na 灯下と蛍光灯下における距離感の精度に関するものであった。蛍光灯下の距離感に比べると、Na 灯下の距離感が悪いものであった。口頭発表と同時に共同通信社の取材を受け、翌日には新聞に掲載された。また当学会から帰宅し、NHK 取材を受けて、夕方 6 時の NHK ニュースで一部が報道された。また学会発表後は、すぐに学会誌へ投稿した。しかしながら一向に掲載への動きがなく、編集委員長である某国立大学の O 先生からの応答も一切なかった。協同研究者の I 先生は編集委員もしておられたので先生に問い合わせると、「三戸君、連名の投稿論文は未来永劫出ないよ」と言われた。論文不採用の場合は、その理由書を投稿者に送るルールがあるが、それも一切なく闇に葬られてしまった。論文が古くなれば、誰かが同様論文をどこかのジャーナルへ投稿して掲載されてしまうと、自身の論文のノイエスがなくなり、闇に葬られてしまうことになる。仕方ないので、近畿大学医学雑誌に投稿をしてとりあえず論文のかたちを確保した。

この研究は、某・道路公団からトンネルに関する研究補助金が出され、それを元にして大学医学部の研究室で実験したものである。研究メンバーには各大学の心理学系研究者と、各大学の土木学系研究者と、某道路公団の職員と某照明研究所々員等がいくつかのテーマの研究グループに属した。そして都度都度の研究集会を持ちながら、研究の途中経過を全メンバーに逐次報告をしながら研究が進められていった。学会発表後の研究集会では、公団職員からほぼ罵倒にちかい言葉をかけられた。同時に協同研究者の I 先生からの発言や援護射撃は皆目無かった。全体の研究委員長は国立大の土木系教授であったが、公団職員に言いたい放題言わせるままで、孤立無援状態となった。研究集会は、大学の定時を終えた夕刻 6 時すぎからの集まりで、会食形式で開催されていた。しかしながらこの折には、食事の味がまったくしない人生経験を初めてした。砂を噛むような食事と言われることがあるが、実際にこれを初めて体験した。公団職員と照明研究所所員は、実験の科学的データに基づく批判ではなく、とにかく小生の研究そのものを潰すことに必死になり、研究メンバーからはずしにかかった。その理由は明白で、本データが真っ当に大きく取り上げられ、高速道路の照明光源が原因で追突事故が多発していることが白日のものとなり、さらに Na 灯が売れなくなることを阻止したかったのである。同時に、照明光源が原因で高速道路交通事故が多発し、その損害賠償を請求されることを強く恐れていると考えられた。高速道路が 1963 年に供用されて以来の高速道路のキロポストごとの交通事故データ解析が終わり、照明光源の変更箇所であるトンネルの入口と出口における追突事故多発は確定していた。定常状態の車の流れでは追突事故は起きない。ドライバーの遠近感に乱れが発生する箇所で、定常走行状態からの乱れを生じ、追突事故の多発につながることになる。

その後、トンネル照明に関する研究をいくつか追加遂行をして、1985 年の英国で開催された第 4 回国際人間工学会において、Visibility studies under tunnel illumination と題して発表した。人間工学関係における国際的動向は、同様な関心をもったイタリアのフィンカムと言

う研究者が同様な研究結果を出していた。

Na 照明に関するトンネル以外の現場、労働現場における例を追加紹介しておこう。オイルショック(第一次 1973~1977 年、第二次 1978~1983 年)によって省エネへの動きが加速され、従来型の白色系照明から省エネタイプの Na 灯使用が推進された。しかしこの現場では、作業者の遠近感のあり方に問題を含んでいた。製鉄業における高炉作業は、夜間でも高炉の火を落とすことが出来ないため、夜間操業が避けられないのだ。バルブを締めたり・緩めたりするために、大きな鉄製のハンマーを全身を使って振り下ろし、バルブをかしめたり、緩めたりする。しかし水銀灯から Na 灯へ替えられて以来、バルブがうまく叩けなくて、バルブの横を叩いたりするエラーが問題となった。そして元通りの水銀灯に戻された具体例が報告されている。

単色光源問題と対応策の研究は、その後、VDT 作業における眼精疲労問題の解決へ援用された。ここにおける眼精疲労の現場では、活用していた視覚ディスプレイは、ブラウン管表示であった。そして表示方式はモノクロ表示が一般的で、陰画・陽画表示区分で言えば、陰画表示であった。陰画表示では、視覚刺激の明るさが全体として暗くなるので、これに合わせる眼の機能として、瞳孔径は開くことになる。この結果、焦点深度が浅くなり、眼の調節機能は絶えず調節を強いられることになった。この影響の一つが眼精疲労へとつながった。同時に、当時のブラウン管内の光を発する蛍光体は、緑色の単色表示が一般的であった。この状態が当該労働における単色光問題につながった。そして単色光を長時間見続けることからくる問題は、VDT 労働における単色ディスプレイによる視覚系疲労問題へと繋がった。結局、光の三原色を用いたカラー・ディスプレイによるモノクロ表示へ変更する対策がとられることとなり、米国アップル社が最初にこれを実行した。なお、この VDT 作業における疲労問題は、あらためて詳しく述べてみることにする。

4. 問題対応への基本

不正事案が起きてから第三者委員会を設置するのではなく、不正事案が起きるまえから第三者＝他者に関与してもらうことが重要である。しかし見方を変えてみると、監査は事業所で実は行われていたはずである。事業所定款には監査の規定が載っている。この監査委員が第三者的に関与しているにもかかわらず、不正事案が出るのは、監査機能が有効に働いていないことを意味する。なお監査の作業内容は、①業務の監査と②会計監査の2種にわけることが出来、多くの人は監査＝会計監査と考えているふし強い。しかし、その事業所の定款目的にのっとった企業活動が正しく行われていることを監査活動ではチェックしなければならないのだ。実態の多くは、会計に強い会計士などが監査委員になって、ときに複数人全員が会計系専門家で、もう一つの目的である業務監査がおざなりになっている。それは、それぞれの業種業態に詳しい専門家を監査委員に据えておく必要がある。

学会や学術専門誌における公正性確保のためには、学会組織や学術専門誌等における監査組織を強化することはもとより、わが国事業所の違反現状をみるにつれ、各学会 & 各専門誌におけるコンプライアンス委員会のような組織強化を提案しておきたい。

創業大手会社のバイエルの子会社のバイエルホールディングは、コンプライアンスを学ぶことが出来るアプリを作成し、同社と子会社からなる約 2600 人の社員のうち、9 割の社員は、会社貸与スマホにアプリをインストールして活用し、未然にリスク防止することにつとめている。また、日本 IBM は 2022 年に、新入社員向けに約 20 分のドラマを作って啓発に努めているが、ドラマは米国の海外腐敗行為防止法 (FCPA) に基盤をおいている。今日のコンプライアンス違反の状況から、各事業所において法務部門まかせにするのではなくて、欧米のように経営陣のなかに法務コンプライアンス責任者をおいておく時代になりつつある。

「いのちと健康の人権宣言」の宣言文を、今ひとたび想起すべき時期にきたと考える。コンプライアンス違反は、人間にとってもっとも大切であたり前の権利である“いのちと健康”を最も危うくするものだ。MHC 会報の 4 巻 1 号に、「いのちと健康の人権宣言」について記し、

注意喚起をした。それは京都の出版社・文理閣から上梓するシリーズ本のために、企画・編集委員会において 1999 年 8 月 15 日にまとめた文章である。その後 13 年目に、危惧していた国内の原発問題が現実のものとなった。そして近年のコンプライアンス違反は、経済効率や利便さを優先させた競争管理社会傾斜の結果、広域にわたるコンプライアンス違反事態へと繋がった。宣言文発表から 25 年目の実態である。いま一度、「いのちと健康を守る」重要性を再確認すべき時である。

以上のようなコンプライアンス違反をみるにつけ、心理学における“欲望”制御に関する研究を急ぎ、かつ強める必要がある。同時に、「自己制御する」「自己制御が出来る」ことが重要なポイントとなる。かたや“主人公化”時代になればなるだけ、自己欲望をひたすら追求する傾向が強まると考えられる。“主人公化”研究を踏まえた制御手法に関する研究が必要となるだろう。なお主人公化については、前号の MHC 会報 Vol.4(4) pp.4~11 において、「主人公になりたい人々の社会(その1)」を記した。さらに近刊号において、「主人公になりたい社会(その2)」として継続的に詳述する予定である。

【参考資料】

- 三戸秀樹 1982 トンネル内照明下における見えの研究。第 17 回人類動態学会(仙台)。
- 三戸秀樹 1982 トンネル内照明下における見えの研究—色相配列検査による評価—。第 49 回日本応用心理学大会(川越)。
- 三戸秀樹 1982 向老者と自動車運転—ナトリウム光源下の見えについて—。第 24 回日本老年社会学会(川越)。
- 三戸秀樹 1983 向老者とトンネル内交通事故。近畿大学医学雑誌, 8: 283-288。
- 三戸秀樹 1983 トンネル内照明下における見えの研究(Ⅰ)—深径覚と加齢影響の検討—。近畿大学医学雑誌, 8: 437-441。
- 三戸秀樹 1983 トンネル内照明下における見えの研究(Ⅱ)—色相配列検査による演色性評価—。近畿大学医学雑誌, 8: 443-451。
- 三戸秀樹 1983 ナトリウム照明下の見えに及ぼす老化影響の研究—深径覚の検討—。近畿大学ライフサイエンス研究, 6(1): 17-19。
- 三戸秀樹 1983 ナトリウム灯下における見えの検討—色彩桿を用いた深径覚—。第 50 回日本応用心理学大会(金沢)。
- Mito, H., 1983 A study on middle and old aged people's behavior on the basis of their involvement in accidents. II Asia/Oceania Regional Congress of International Association of Gerontology (Singapore)。
- 三戸秀樹 1984 ナトリウム灯下における見えの検討—色彩桿の進出後退現象を加齢影響—。第 54 回日本公衆衛生学会(米子)。
- 三戸秀樹 1984 ナトリウム照明下の見えに及ぼす老化影響の研究—色知覚の検討—。近畿大学ライフサイエンス研究, 7(1): 19-20。
- 三戸秀樹 1984 ナトリウム灯下における見えの検討—瞬間露出視と加齢影響—。第 57 回日本産業衛生学会(札幌)。
- 三戸秀樹 1984 限定波長域下作業と視覚系負担。第 51 回日本応用心理学(東京)。
- 三戸秀樹 1984 中高年運転者のトンネル内追突事故防止のための照明環境に関する研究—瞬間露出視と加齢影響—。近畿大学ライフサイエンス研究, 7(2): 39-43。
- 越 正毅 1984 高速道路トンネルの交通現象。国際交通安全学会誌, 10(1): 32-38。
- Mito, H. 1985 Visibility studies under tunnel illumination. IV Congress of The International Ergonomics Association (England)。
- 三戸秀樹 1987 中高年運転者のトンネル内追突防止のための照明環境に関する研究: 瞬間露出視と加齢影響。国際交通安全学会研究助成報告書, 5: 39-43。
- 三戸秀樹 2023 いのちと健康の人権宣言。MHC 会報, 4(1): 5-6。

性格検査やストレス検査における応答の恣意性と客観性 —客観的指標: 生理心理学的アプローチの可能性について—

三戸 秀樹

1. はじめに

問診形式やアンケート形式の問いかけ法は、恣意的や偽装した応答に対して、何ら防ぐ手だてを持たない。性格検査等における虚偽応答に対する L 得点によるチェック法があるが、この得点が高い場合、信頼性のないデータが使用に耐えないだけに留まる。高い L 得点者の性格検査や不安傾向をどのようにとらえれば良いのかに関する代案がない。現状下では、代わって

信頼性の高いデータ捕集するすべは提案されていないのだ。すなわち L 得点手法は、得られたデータが信するに足らないことまでにとどまり、その代わりに信頼性のある代替え応答データを示さない。そもそも問診形式やアンケート形式には、この信頼性の無さという大きな欠陥を有している。早急に、信頼性あるデータ捕集法を呈示すべきである。加えて、国家的に進められているストレスチェックにおいても、精度のよくない手法にとどまっているのである。

2. 客観的性格データ捕集への期待

話は変わるが、戦後しばらくすると林業労働者は従前の手鋸に代わり、動力付ノコ、いわゆる小型ガソリンエンジンがついたチェーンソーを使い始めた。このチェーンソーを使ううちに、冬の寒い日、手指が急に白くなって、この手指の痛みで伐倒や枝払い作業が出来なくなった。当初には風土病説も出たが、研究がすすむうちに、原因の一つは取り扱い道具のチェーンソーからくる振動が疑われ始めた。同時に、患者症状にある一定の振動周波数に対する手指感覚鈍麻が疑われはじめた。

この結果、林業労働者の特殊健診調査のうちに、従前健診にはなかった振動覚検査が導入された。最初の頃は既存の医療用振動覚測定器がなく、ダイナミックスピーカーの後ろにあるコイルを介した振動子を流用し、各種周波数の振動とその大きさを dB(デシベル)表示であらわして、振動覚の閾値測定がはじまった。現在は、医療用機器としてリオン社製の振動覚計を求めることが出来る。

折りしも 1957 年(昭和 32 年)に大阪の千林で日本最初のスーパーマーケットが誕生した。その後は、またたく間に全国にスーパーマーケットが発足し、1975 年にはスーパーマーケットの年間販売総額が百貨店のそれを抜いた。ここに働く労働者たちは、NCR 製か SWEDA 製の機械式金銭登録機の打ち込み作業を行いながら、最後にお客との金銭授受を行った。当時のベストセラー金銭登録機である NCR 22 号機を右に示したが、機械式金銭登録機には、価格の各ケタごとに 0 から 9 までの数字を記したキイが縦に並び、598 円を入力する場合には、100 のケタの「5」のキイ、10 のケタの「9」のキイ、ひとケタの「8」のキイを、それぞれ異なる指の力で押し込む必要があった。



図. NCR 22 号機

さらにブラインドタッチ法では、作業者は商品を左手で扱いながら、商品に貼付されている価格付票に注目しながら、右手の打鍵手元を見ないで、金銭入力を遂行した。この手法を、いわゆるブラインドタッチ法と称した。そしてこの作業を専門的に行うチェッカー作業者たちが短期間のうちに数多く誕生した。当時は、女性の数少ない仕事のひとつでもあり、花形の仕事でもあった。そのころ、安土敏が「小説スーパーマーケット」(上・下巻)を書いた。当時の雰囲気をよくあらわしており、新人研修のバイブルともなった本格的企業小説である。

スーパーマーケットの売り出し戦略は、一般商店において 100 円で売られている商品を、99 円や 98 円で販売することによって、多くの主婦層の支持を獲得した。このキリのよくない、最後のケタまで間違いなく価格数値を読み取り、かつ正確に打ち込み作業を行わないと利益につながらない緊張感ある事態に晒され続けた。同時に当時、チェッカーの着衣の襟には、「優」や「秀」や「良」などのバッジがつけられていた。これは、正確に金銭登録機へ入力するコンテストが全国規模で実施され、その単位時間あたりの打鍵数とその打ち込み精度から「優」「秀」「良」などのランク付けが行われていたのである。チェッカーたちが集まる休憩室やバックヤードには、各チェッカーの名前と各チェッカーの打ち込み違いの頻度や損金合計がグラフ化され、競争状況をあおった。この結果、各自の作業密度が最大近くまで上がり、打ち込み間違いが無いことや、金銭授受の正確さに対するストレスにさらされ続けていた。このチェッカーた

ちからの訴えは、手や腕や肩や首の疲労感やしびれなどの訴えが出ると同時に、不定愁訴やヒステリー症状、さらには書痙のような症状が出はじめたのである。繰り返しになるが、チェッカーは全員女性であった。

ここにおける現場のチェッカーたちに対する特殊健康診断調査では、林業労働者と同様な、指先の冷えや振戦などが観察された。このために林業労働者向けに開発された振動覚検査も実施された。同時に、ヒステリー様症状も観察されることから、英国の H.J.アイゼンクによって作成された性格検査 MPI (Maudsley Personality Inventory) との関係について検討を試みた。MPI は、外向性・内向性と神経症的傾向の二つの性格特性を把握することができる性格検査で、ヨーロッパでは広く使われている性格検査である。なおアイゼンク先生のもとへ留学しておられた黒田実郎先生（当時、聖和女子大学・教授）の許可を得て、黒田先生考案の簡易 MPI を用いた。簡易版の採用理由は、特殊健診調査の限られた時間内で実施するため、検査時間の短縮をはかった（注：所要時間は約 5 分）。同時に、配属予定の部署雰囲気や仕事の進め方などとの相性、職務内容に対する適応のしやすさなどのために援用出来て、新入社員に対する適正配置にも使えそうだと考えた。この折に、顕在性不安尺度 MAS (Manifest Anxiety Scale) も実施した。ちなみに MAS は、J.A.テイラーが MMPI から 50 項目を選出し、顕在性不安尺度として発表したものである。日本版 MAS はこの 50 項目に、信頼性を吟味する L 尺度 15 項目を加えて 65 項目から構成し、16 ～ 60 歳の広い年齢層において日本標準化が行われている。精神的、身体的な徴候としてあらわれる顕在性不安の測定尺度として用いられた。

上記の職業性問題の真の原因を究明するために、検査項目が定まっている定期健康診断ではなくて、特殊健康診断がさまざまな角度からすすめられていった。前者の林業労働者の問題は、いわゆる“白蠟病”と称する振動障害であることが後日明らかになった。そして後者の金銭登録作業における問題は、頸肩腕障害であることが後日、同様に明らかとなった。暗中模索状態では、さまざまな多くの検査項目が実施された。

各種の検査項目の中から、各種の機能検査と MAS の関係について相関関係をさぐってみた。ちなみに各種の機能検査は、握力、背筋力、肩腕力、手指摘まみ力、手指タッピング（10sec.、60sec.）、型はめテスト、両手協応検査、単純反応時間、短期記憶、計算力（加算、減算、乗算）、視力（遠点、近点）、安静時皮膚温、温冷覚、血圧、触覚、痛覚、振動覚などの 18 項目であった。

3. 問診的検査でない生理心理的検査と性格の関係

特殊健康診断の際に捕集した 18 項目と MAS 不安検査の測定データが大量に蓄積されたので、これら 18 項目と MAS データの相関をしらべてみた。ここにおける有意な相関関係は、振動覚と MAS 検査のあいだでみられた。これまで性格を調べるために、質問紙法で問診的にとらえてきたものに代わるものとして、より客観的な生理心理学的な指標捕集を試みたが、過去にどれくらいあったのかは寡聞にして知らない。しかし今回の振動覚と MAS 検査との相関関係する知見は、問診やアンケート方式による性格検査とは異なり、恣意性の少ない客観的な性格指標となる可能性を示している。

感覚入力データは、視覚系を介する検査項目と、体性感覚を介した検査項目とのあいだに異なる傾向が観察された。体性感覚という原始感覚に分類される振動覚は、見たり、聞いたりするような高次の感覚系データとは異なる種のものである。この原始感覚にちかい体性感覚は、ヒトが自身の性格を形作ってきた原始から併走し、営々と培ってきたプロセスと重複するのではないかと考える。見る・聞くといった感覚系は進化の過程では、より高次神経活動系に近い種のものである。ちなみに、疲労検査におけるフリッカー計という光のちらつき加減の閾値測定は、目の進化発達が大脳系に近いことから、脳の疲労状態を反映するものと考えて、疲労測定に活用されてきたのである。

振動覚計は、林業労働者におけるチェンソー使用による振動障害という新しい職業病発生を

契機にして、新規に開発された新しい感覚測定機である。体性感覚系データ捕集と性格の関係について、さらなる検討や研究が待たれる。

性格検査は、これまで問診式調査表でしかとらえられてきていない。問診式検査法の最大欠点は嘘や偽り回答に対してほとんど力をもたないという点である。偽り回答チェック用に問診式し得点を捕集しても、その偽りし得点の基準値の設定によっては、本当に正直な回答者が嘘つき回答者に判定されてしまう。またし得点が高値であった場合、その対象者の性格検査の代用をどうするのかであり、代案が示されていないのだ。より客観的な性格検査をもとめる流れから、偽りのない生理心理的検査法により、恣意性を排除する工夫がいるのではないだろうか。

金銭登録機を用いたスーパーマーケット形式の店舗が、大阪千林においてわが国で最初に導入され、その職域において頸肩腕障害が多発した頃、関西圏の二大スーパーマーケットにおいて就労前と定期的特殊健康診断を実施していた。そのおりの多彩な検査群のなかに、性格検査や MAS 検査や振動覚検査を導入していた。大量のデータが捕集できる機会でもあったので、このデータを用いて、性格検査と生理心理的検査のあいだの関係性について集計を試みたのである。

【参 考 資 料】

三戸秀樹, 中迫勝, 西山勝夫, 細川汀 1978 MAS 評価と機能検査, 第 51 回日本産業衛生学会(松本), 1978 年 6 月, (産業医学, 20 巻 pp.500)

アインシュタインの墓碑銘 — 関学心理とア氏 —

三戸 秀樹

1. 先輩後輩の交流

関西学院大学の心理学者とアインシュタインの関係について、知らない人が多いので記しておこう。三宅進(すすむ)先生(1929~2011)は、1953 年(昭和 28 年)の関西学院大学・文学部・心理学専攻の卒業である。同期生 16 名のなかには、宮田洋(1929~2022)先生(関西学院大学・文学部)、大谷暉先生(兵庫医科大学)、杉山貞夫(1929~2015)先生(関西学院大学・社会学部)、久保和男先生(大阪国際大学)、黒田健次先生(関西福祉大学)、大伴公馬先生(帝塚山短期大学)、などがおられた。とりわけ三宅先生は宮田先生と仲がよく、宮田先生を囲む会の開催時には、必ず三宅先生も併せお招きした。また、当学年の先輩たちは、筆者から一回り以上離れた 16 才ほど年長の先輩たちである。しかし上記の方たちは会話を交わした記憶のある方が多くおられる。そればかりか…、自身が心理学徒として勉学と研究に励んでいた時、大変お世話になった諸先輩でもあった。大学院で修士論文を書く時には、東京で下宿をして通産省・製品科学研究所で研究をさせていただき、人間工学第二課の課長をされていた大谷暉先生に大変お世話になった。杉山貞夫先生宅へは何をしに行ったのか記憶がないが、芦屋の御自宅まで 2 回ほどお伺いをした記憶がある。そして杉山先生が多忙になられ、社会学部の御担当科目「産業心理学」の代講を 10 年ほどしていた。大伴公馬先生の退職前には大学講義の代講で奈良へ行った。

三宅進先生はお若い頃、大阪市森ノ宮にあった大阪府立公衆衛生研究所の精神科におられた。そして廊下向かいに、労働衛生部・人間工学室があった。この人間工学室で小生は、学部 4 年生の 1 年間、卒業研究をさせてもらった。時間があると向かいの部屋から三宅先生がこられてお茶を飲まれ、幾度となく研究室でお目にかかった。何故なら、大学同期生の大谷暉先生がこの人間工学室長をされていたので…。研究室に来られるときの挨拶は、「まいど！」でした。そして大谷先生の朝のあいさつも「まいど！」の返でした。

このように世代を越えた交流が成立している理由は、関学の心理学科が、初代卒業生から直近の卒業生までが、年に一回、一同に会する学士会開催をしていたからである。現在は、個人

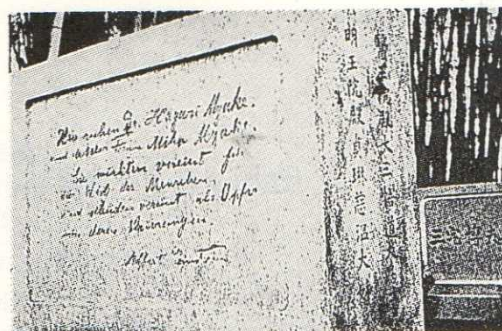
情報保護法が出来て以来、従来型の学士会開催はほぼ行われていない。

2. 三宅進先生のこと

三宅進先生は、大学卒業後、岡山県の旭川学園、大阪市の大阪府立公衆衛生研究所、そしてふたたび岡山市のノートルダム清心女子大学、さらに岡山市の新設・川崎医療福祉大学で教鞭をとられた生理心理学系の研究者であった。中公新書の「ウソ発見：研究室から犯罪捜査へ」（1989年）では、一般の読者向けにGSR反応という電気生理的反応を活用した内容を紹介されている。本来、西宮市に御自宅があったが、岡山への赴任は、先生のお父上・三宅博（ひろし）先生（1901～1993）が、1941年から1947年まで岡山大学・医学部・第一外科学教授で、岡山で育ったという岡山親和性が高いことと無関係ではないように思う。さらに付言すれば、三宅家の出自である徳島の初代の医師は、江戸時代に岡山から移住したと言われている。府立公衆衛生研究所時代には、大阪府警の門真運転免許試験場における処分者講習の講義も担当されていた。筆者は、光明池に二つ目の運転免許試験場が36年前に出来た時、大阪府警から処分者講習・講師を頼まれた。その際の紹介者であったのではないかと思う。この進先生の父上・博先生の父上が三宅速（はやり）先生である。

3. 三宅速（はやり）先生

徳島県穴吹町舞中島の医家の8代目として1866年に生まれた。1878年の12歳の時に親元を離れて上京し、東京外国語学校などに通い、7年後に東京大学予備門を経て東京帝国大学医学科へ入学した。東京帝国大学医学科を25歳で首席卒業。卒後は、東大スクリバ教授のすすめで外科へとすすみ、外科学教室の助手になった。郷里に父が開いた三宅外科医院で5年ほど働くが、33歳でドイツへ留学。帰国後、徳島の三宅外科医院に従事する。35歳で大阪府立医学校（現在の大阪大学・医学部）の外科医長となった。しかし再度ドイツ留学をした。38歳の1904年に福岡医科大学の教授となり、翌1905年（明治37年）、わが国で最初に脳腫瘍の摘出手術を成功させた。1910年に京都帝国大学福岡医科大学の初代外科部長となった。なお九州大学医学部の成り立ちは、東京帝国大学、京都帝国大学の医学部に続いて三番目に設立された医学部である。詳しくは、明治36年（1903年）に京都帝国大学福岡医科大学として発足をし、



三宅速夫妻に対する Albert Einstein からの墓碑銘

1911年に九州帝国大学医科大学となり、1919年に九州帝国大学医学部と名称をかえ、1947年（昭和22年）から現在の九州大学医学部となった。

1922年（大正11年）の万国外科学会からの帰路、欧州航路で就航していた日本郵船の北野丸（8,512トン）の船上で、10月8日からドイツの理論物理学者・アインシュタイン（1879～1955）と南仏・マルセイユから一緒になった。アインシュタインにとっては、日本の出版社・改造社からの講演会開催企画のための招待であった。旅費を含めた謝金は2千英国ポンド（日本円で約2万円）で、当時の大卒者の初任給が50円であったから、いかに破格の謝金であったか…ということになる。50日ほどの航海途上、42歳のアインシュタインが腹痛を訴え、彼自身はガンを恐れた。しかし56歳の三宅がアインシュタインを診察治療して、ガンの疑いが晴れた。北野丸が日本に近づいた頃、アインシュタインのノーベル賞受賞の報が11月12日、船にもたらされた。そして11月17日に神戸港へ到着した。それから12月の終わりちかくまで、名古屋、京都、大阪、神戸などで講演をおこなった。予定にはなかったが福岡行きを決め、福岡講演をして、三宅家を訪れたのであった。その後、二人の親交がさらに深まり、多くの手紙のやりとりが残され、三宅は渡欧のたびにアインシュタイン宅を訪れた。その後、速は60

歳で九州大学を定年で去った。そして、阪神間・芦屋に居をもとめて福岡から移住した。

進先生は、彼の父親・博先生が岡山大学・医学部・外科学教室の教授だったので、小学校 3～4 年(昭和 14～16 年)のころ、夏休みになると自宅の岡山宅から移動して祖父が住まっている芦屋の家で過ごし、それは楽しい記憶として残された。そして、1941 年(昭和 16 年)12 月に太平洋戦争が勃発し、戦いの場が次第に日本本土へと接近し始めた。1944 年 11 月東京空襲以降、全国の多くの都市部は、北九州、那覇、東京、名古屋、大阪、神戸、広島、呉、福島、郡山、神奈川、川崎、横浜、茨城、日立、鹿児島、浜松、福岡、静岡、長崎、佐世保、岡山、熊本、高松、徳島、千葉、甲府、和歌山、堺、仙台、宇都宮、岩手、釜石、青森、北海道、室蘭、福井、銚子、大分、保戸島、松山、山口、徳山、愛知、一宮、新潟、長岡、富山、群馬、前橋、高崎、広島(原爆)、豊川、八幡、長崎(原爆)、岩国、埼玉、熊谷、伊勢崎、秋田、土崎などが、この空襲洗礼を受けた。数次の空襲をうけた地も多いが、複数回のものは初回の時の順で記した。原爆投下地は複数回表記だが、あえて記載をした。これら空襲による総死者数は、459,564 人と言われる。

1945 年(昭和 20 年)6 月 29 日の岡山空襲によって、三宅速・夫妻は岡山市難波町の防空壕で命を絶った。それは、芦屋宅から鳥取県三朝へ疎開するために、途中、息子・博宅の岡山へ滞在し、6 月 30 日に鳥取へ向けて移動する前日のことであった。進は、その時、旧制岡山県第一中学校 3 年生 16 才であった。父・博とティーンエージャーの息子・進の二人で防空壕のなかで抱き合って焼死していた祖父母の遺体を取り出した。教室員数名の助けを借りて、リアカーに乗せ、地獄のような様相の道を通りながら岡山大学キャンパスまで運び、荼毘にふした。少年に対して、何とも強烈で残酷な経験を強いたことか…。進先生とのお付き合いのなかで、一度もこの出来事について話されたことはありませんでした。この文章を記すために渉猟した記録から浮かびあがりました。

現在、徳島県美馬市穴吹町舞中島のお寺「光泉寺」の墓地には、三宅速(1866～1945)博士のお墓があり、横にアインシュタイン博士が送った墓碑銘が記されている。墓碑には、ドイツ語で「ここに三宅速博士と三保夫人が眠っている。二人は共に人の世の幸せのために働き、そして世の恐ろしい迷いの犠牲になってともに亡くなった」と刻まれている。

詳細は、三宅進先生の妹さんである比企寿美子さんが、2009 年に出版された「アインシュタインからの墓碑銘」に詳しい。なお、比企寿美子さんは、エッセイスト、ノンフィクション作家である。夫は、北里大学医学部の比企能樹名誉教授である。

三宅速先生が書き残した遺稿集(手記)、それは大学ノート 9 冊におよぶものであった。このメモを孫の進先生が、「或る明治外科医のメモランダムー九州大医学部揺籃時代ー」と題して 1998 年に上梓した。大学ノート 9 冊の流れは、速先生から博先生へと伝えられ、さらにそれが孫にあたる進先生の手元に残された。進先生は、この手書き内容をフロッピーへ移し替える作業のために丸 3 年間を要している。この本の写真ページの 8 頁にある「三宅外科創立期の 10 人衆」の絵はがきは、筆者宅に保存されていたものを三宅進先生へお貸ししたものである。実は、筆者の祖父・三戸玄三(1884～1975)は広島県賀茂郡(現在の東広島市)出身で、九州帝国大学医科大学の 1912 年の卒業生(6 期生)で、外科を目指したのではないかとと思われる。広島から東京へ出て、独逸学協会学校(現・獨協大学)でドイツ語の勉強をし、天野貞祐と同級生でもあった。続いて、第一高等学校を 1908 年に卒業した。東京帝国大学へは行かずに列島を南下し、福岡の九州帝国大学医科大学へ入学して、陸軍軍医委託生となった。1912 年 12 月に九大を卒業して、陸軍軍医に任官し姫路の騎兵連隊に勤務した。そして東京の東京帝国大学医学部病理学教室へ内地留学をして、同時に北里研究所へも通った。ところが実父の願いで、軍医退官をして三戸一家は 1917 年ハワイへ赴いた。米国の医師免許を取りなおし、開業試験に合格し、ハワイのヒロで三戸医院開業を始めた。そして 1923 年の関東大震災の年に帰国し、広島市南区淵崎で三戸医院を開業した。その医院には病室が 10 室ほどあり、手術場はタイル

貼りの白一色の部屋であった。三宅速先生が手術場環境のあり方について、留学先のプレスラウ大学のヨハンス・フォン・ミクリッチの手術場状況を伝授する内容と一致する。祖父と交わした会話のなかに、「秀樹さん、外科医は右手でも左手でも同じように動作が出来るように訓練します」と言われたことを記憶している。これも三宅速先生の両手使いと一致するものである。

先に述べた「三宅外科創立期の 10 人衆」の絵はがきの 10 人衆のなかに祖父・三戸玄三が描かれている可能性は高い。しかし今となっては確かめるすべはない。筆者が知っている玄三は、常に口ひげを生やしていた。若い頃の髭スタイルは直接みていないが、写真に残されているものは、いわゆるカイゼル髭であった。であれば、後列 3 人よりすぐ下にいる眼鏡をかけている人物が玄三であるのかも知れない。

蛇足かも知れないが、筆者は三宅進先生が、三宅速先生の風貌や、そして体型まで一番似ておられると感じている。また、三宅博先生の写真風貌から受けるものは、おそらく母親似であったのではないだろうか…。

心理学者の祖父という濃い類縁の者と、アインシュタインの關係に不思議な縁があったことを記して、記録としたい。

【参考図書】

藤野守一(編) 1976 医師 三戸玄三、私家版。

三宅速、三宅進 1998 或る明治外科医のメモランダム—九州大医学部 揺籃時代—。日本文教出版：東京。

比企寿美子 1999 引導をわたせる医者となれ。春秋社：東京。

比企寿美子 2009 アインシュタインからの墓碑銘。出窓社：東京。

藤野清次、秀村選三 2013 情報検索時代の事例研究(その1)—アインシュタインと三宅速両博士の友情訪問記—。情報処理学会研究報告、3:1-7。

藤野清次、久野孝子 2014 情報検索時代の事例研究(その2)—アインシュタインの碑の物語—。情報処理学会研究報告、3:1-8。

森嶋友一 2022 医学史アネクドット 10「スクリバを訪ねて」。国立千葉医療センターニュース、86:8-9。

ニッポンは下等国だった —いつからやや上等国—

三戸 秀樹

1. 下等国と言われた時代

江戸時代から明治時代へ移行する移行期には、わが国の実態が西洋文明に比して相当遅れていることを否が応でも認めざるを得なかった。新政府は、あらゆる部面について追いつくことを念頭に置いた。明治維新以降には、鹿鳴館という洋館まで建てて、「ざん切り頭を叩いてみれば、文明開化の音がする」といいながら、かたちだけでも洋風のたたずまいを強調した。当時の日本は、上等国(注：現在の先進国)に比べて下等国であると自認していた。望むらくは上等国だが、せめても中等国にはなりたいと念じた。

このような希望はつい最近まで残されていたと思う。例えば、和歌山県御坊市のホームページには、市政 50 周年にあたって 2004 年(平成 16 年)に名誉市民第一号として和田 勇氏(米国籍=フレッド・イサム・ワダ)(1907~2001 年)を顕彰している。この明治 40 年生まれの方は、米国の西海岸地域で農産物マーケットのチェーン店経営で成功をおさめられた方で、同時に、1964 年の東京オリンピック招致のために、私財を投げ出して中南米諸国の IOC 委員を回って票をまとめ、東京開催への道をつけた。マラソンの強化練習のための高所トレーニングの場として、メキシコシティが活用されている。この際にも和田氏の支援が働いていたことはあまり知られていない。この多大な尽力に対して、東京都は和田氏を名誉都民に選んだ。1964 年 10 月 10 日、東京オリンピック開会宣言に際し、和田は「日本はこれで 1 等国になった」

や、戦争で敗れて、4 等国になったが、よう立ち直った。日本人は皆よう頑張った。」と述べた。

1.1.下関戦争、観戦武官

下関戦争が、幕末の 1863 年（文久 3 年）と 1864 年（元治元年）に、長州藩と英国・フランス・オランダ・米国の列強四国との間で起きた。このあと 1866 年（慶応 2 年）、米国、英国、フランス、オランダの 4 カ国と改税約書を締結し、全国 8 カ所に灯台を建設することを約束した。開国前に約束した洋式燈台の建設は、まだその技術をもっていなくて英国人技師を雇用して洋式燈台の建設を急いだ。串本にある檜野崎灯台の遺跡は、その当時の状況を今に残している。当灯台は、1870 年（明治 3 年）7 月 8 日に初点灯をしたわが国最初の石造灯台である。

この檜野崎のすぐ沖で、オスマントルコ帝国海軍の軍艦エルトゥールル号が帰国の途についた折り、1890 年（明治 23 年）9 月 16 日に台風のために難破をした。軍艦派遣は、1887 年の小松宮彰仁親王夫妻によるイスタンブール訪問以来の皇室関係から、明治天皇へ勲章を贈るために、エルトゥールル号を日本へ派遣したのである。そして遭難事故後 20 日のち 10 月 5 日に、生存者 69 名を海軍の軍艦「比叟」と「金剛」に分乗させ、1891 年 1 月 2 日に首都イスタンブールまで送り届けた。ここにおける日本の気遣いは、当時の大国であるオスマントルコに対して、下等国と思われたくない気持ちと無関係ではないと思料する。

1904 年～1905 年の日露戦争においては、欧米諸国からの多数の観戦武官の申し入れがあった。わが国には、英国、米国、ドイツ帝国、オーストリア＝ハンガリー帝国、スペイン、イタリア、スイス、ノルウェー、スウェーデン、ブラジル、チリ、アルゼンチン、オスマン帝国など、13 カ国から 70 人以上の武官を迎えた。なかでも英国の場合は、33 人の武官派遣をし、全員が日本海軍の船に乗船した。

日本海海戦後、海外からの観戦武官の人々は、日本の海戦開始の手續にきはまったく瑕疵はなかったと述べた。東郷平八郎のこの点に関する配慮は、十分であったのだ。しかし、1941 年 12 月に始まった太平洋戦争における開戦手続きは、突然の夜襲に近いもので、国際的手続きから逸脱したものであった。

1.2.第一次世界大戦の難民対応と捕虜待遇

<ポーランド孤児の救出>

1914 年、英国・フランス・ロシアの連合軍とドイツ・オーストリアを中心とした同盟国の間で第一次世界大戦（1914 年～1918 年）がはじまった。この途中、ロシア革命が起こって内戦状態となり、ロシアは戦線を離脱。英国はロシア革命軍とドイツ牽制のために、日本や米国にシベリア出兵を要請した。連合軍側に組みした日本は、ロシア革命軍の牽制のために日本軍をシベリアへ出兵した。当時のシベリアには、ポーランドからの政治犯家族や戦争難民がおり、祖国に帰れないため飢餓者・凍死者・病死者などが続出した。ウラジオストックにおけるポーランドの救済委員会は、欧米諸国へ救済を依頼したが、すべて拒否されてしまった。最後の望みの綱は日本であり、日本政府はこれに答えた。

ポーランドは、1918 年、ロシア、オーストリアとプロイセンによって領土分割され、国が存在していなかった。当時シベリアという辺境の地は、ポーランドにおける政治犯の流刑の地であり、戦争難民の地になっていた。同時に、親のいないポーランドの戦争孤児たちがいた。当時、シベリアへはアメリカ、イギリス、フランス、イタリア、そして日本が出兵していた（シベリア出兵）。孤児だけでも祖国へ返そうとポーランド児童救済会が作られ、多くの国々との交渉にはいったが、万策尽きて日本に救済を要請した。日本はそれから 17 日後に要請受諾を決めた。

日本赤十字社（日赤社長：石黒忠憲）と日本軍によって、シベリアから 763 人のポーランド孤児が救出され、1920 年から 1922 年に 8 回に分けて救出された。船は敦賀へ到着し、一部は東京都の福田会育児院へ、また一部は、大阪の大阪市公民病院（現在の大阪市立病院）付属

看護宿舎へ収容された。そして、病気と体調復活に注力がなされ、東京滞在は約1年間、大阪滞在は1ヶ月余であった。そして、米国経由と、ヨーロッパ経由によってポーランドへと帰国した。1921年3月、ソ連との戦いに勝利したポーランドは、晴れての独立をはたした。孤児たちが祖国に戻ったのは、ちょうどそのような時期であった。

＜第一次世界大戦の捕虜待遇＞

第一次世界大戦のおわりに、ドイツの租借地であった青島で捕虜となったドイツ帝国将兵およびオーストリア＝ハンガリー帝国の将兵4715名が、わが国の16カ所の俘虜収容所に一旦収容され、後日建設された6カ所の収容所へ移動し、1914年から1920年までの俘虜生活があった。このうちの1000名は、丸亀、松山、徳島の俘虜収容所などから、徳島県鳴門の板東俘虜収容所へ1917年4月から1920年3月まで3年間ほど収容された。この収容所は、捕虜に対して寛大かつ友好的処置をおこなったことで知られている。多数の運動施設、酪農場を含んだ農場、ウイスキー蒸留生成工場、パンを焼く窯、謄写版と石版の印刷所、所内の新聞発行などの遺跡と記録が残された。音楽活動では、わが国初のベートーベンの交響曲第九番の全曲演奏が行われたことでも知られている。この捕虜の扱い方において、通常の捕虜取り扱いとは随分と異なるものを感じ取ることが出来る。この捕虜取り扱いについて、当俘虜収容所の松江豊寿所長の人となりや、会津藩士であった明治維新時の体験に言及されることが多いが、これ以外の収容所においても日本に留まったドイツ人を見つけることが出来る。板東俘虜収容所の捕虜ではなかったが、神戸における洋菓子のパウムクーヘンで有名なユーハイムは、この時のドイツ人捕虜カール・ユーハイム氏が日本に留まり、洋菓子店をはじめたルーツをもつ。わが国におけるソーセージ製造の歴史においても、ルーツは習志野俘虜収容所にいたドイツ人捕虜のカール・ブッチングハウス氏に繋がる。彼は後年、日本人女性と結婚し、東京の目黒に工場と店舗をもち、さらに神戸へ移動した。伝承者は、ブッチングハウスの名前でソーセージ店を開いていたが、阪神淡路大震災を期に閉店した。収容所におけるいやな思いを受けた人は、その地に留まることはまずしないであろう。

第一次大戦での捕虜のなかには、東京帝国大学医学部で1881年から医学を教えたドイツ人医師ユリウス・スクリバの次男のエミールが含まれていた。スクリバは、ベルツとともに日本の近代西洋医学の恩人といわれる。スクリバの教え子であった外科医・三宅速は、教え子を代表して1914年8月25日に熊本俘虜収容所へ慰問に訪れた記録が、図書「或る明治外科医のメモランダムー九州大医学部揺籃期ー」に残されている。

2. 先進国になった？

第二次世界大戦の際の捕虜への対応史は、第一次世界大戦における俘虜への対応史とは随分と異なっていた。2023年12月に、POW研究会から「捕虜収容所・民間抑留所事典ー日本国内編ー」が出版された。米国の公文書や元捕虜、日本人関係者への聞き取りや調査を進めてきたもので、戦後78年目の上梓である。病気や飢え、暴力などを原因として亡くなった捕虜も多く、収容に加担した者はBC級戦犯に問われた。

太平洋地域で約16万人の連合軍将兵を捕虜にして、そのうち3万5千人の捕虜を労働力として日本へ連行した。国内各地には、約130の捕虜収容所が造られ、炭鉱・造船所・工場などで働かされた。さらに日本国内にいた民間人であるが、敵国人として抑留所に収容されたケースは、短期のものを含めると全国に52カ所の収容所があったことが分かる。なかには、長崎の俘虜収容所では原子爆弾投下によって英国人1人、オランダ人7人が犠牲となった記録も残された。

日本国内にいた外国籍の民間人も敵国人として、全国各地の抑留所へ収容された。その抑留所は短期間のものを含めると延べ52箇所あった。そして終戦後、故国へ帰国した捕虜たちも、心と身体に深い傷を負い、現在も癒えない傷で苦しんでいる人たちがいる。長野県軽井沢町には、外国人疎開地があり、30カ国を越す外国人が約1800人いた歴史も残された。これ以外に

は、戦時下突貫工事をおこなった泰緬鉄道建設において、連合軍捕虜 6 万余人に課した過酷な鉄道建設労働による大量の死者は、国外における過酷な捕虜扱いの記録として残された。現在はタイ側のみだが 4 つの博物館と、2 つの墓地と日本軍の慰霊碑が残されている。

下等国扱いを国際的に長らく受け続け、またそれを自認し、何とか中等国ないしは上等国になりたいと思いつけてきた。そして上等国、いや先進国になったと思っている人が多くいる現在。しかし真の実態はどうだろうか。先進国に仲間入りしたのは一体何時からなのか。それを判断する指標としては、世銀へ借金を完済した時をもって、晴れての先進国への仲間入りをしたと解釈することが出来るのではないだろうか。

世界銀行は、低所得国や中所得国政府に対して、資本プロジェクトを進めるために融資や助成金を提供する国際金融機関のことである。国際通貨基金をもとに、1944 年に設立された。1970 年代までは発展途上国への融資が中心だった。しかし 1980 年代になると、途上国融資から次第にはなれて、NGO や環境保護団体へも融資をするようになった。わが国は 1952 年に加盟して、翌 1953 年から借入をはじめた。これによって、黒四ダム、名神高速道路、東名高速道路、東海道新幹線などを建設してきたが、発展途上国として 1953 年以来 37 件の借入をした。これらの完済が 1990 年 7 月であった。現在、完済後 34 年目にあたる。言葉を代えるなら、開発途上国＝下等国からの脱却はたかだか 34 年目なのである。つまり、先進国のなかではまだホヤホヤの新参国で、完璧な上等国ではないのかも知れない。

筆者が小中高時代に、「ゆりかごから墓場まで」の福祉国家をして習ったのは、英国の例であった。戦後の新憲法制定から、「ゆりかごから墓場まで」の福祉国家をめざした。しかし、まだ前時代の遺物のようなものが随所に残されている。男女の労働収入の格差はまいまだに厳然として残り続けている。経済協力開発機構 OECD の 2022 年調べでは、日本女性の賃金は中央値でみると男性の 77.5 % であった。加えて、世界経済フォーラム 2023 において、146 カ国の政治や経済における男女平等ランキングでは、日本は 125 位であった。前時代の遺物のごとき優生保護法は、戦後 1948 年から 1996 年まで存在し、人権侵害である断が下されたのは 2 ヶ月あまり前の 2024 年 7 月 3 日であった。この現状は、下等国以外の何者でもない。ここで示された人権侵害は、上等国（先進国）～下等国（後進国）以前の問題である。

【参考図書】

POW 研究会 2023 捕虜収容所・民間抑留所事典－日本国内編－。すいれん舎：東京。

労働心理学のあれこれ（7）

－臨床心理による改善課題ではなかったケース（その1）－

1. クライアント中心の展開

産業系や労働系における、臨床心理学や心理臨床からの取り組みは大切である。しかしこれだけをやっても、働く人たちの“いのちと健康”は守りきれないと考える。このためには、労働現場を直視する視点を失わないことと、そして産業心理学の学習が大切だ。もっとも、近年の産業心理学内容においては、①ヒト－ヒト関係、②ヒト－モノ関係の二大区分における②ヒト－モノ関係の記載が大きく欠落していることを指摘しておく。

下記の諸ケースは、①接客中にお客を前にして居眠りをしてしまうケース、②字を書く段になると急に手が震えて書字が乱れるケースなど、産業心理学的研究から真の原因究明や解決への糸口へつなげたケースである。

クリニカルという原義には、①第一義のベッドサイドの意味以外に、②第二義の同一平面でクライアントへ対処する意味を含んでいる。これは上から目線でないことを意味しており、とりわけ心理臨床分野では、労働者と心理屋は同一平面において寄り添うものである。

人が働く産業場面では、多くの職場において仕事を遂行するために道具を多用する。世界の

中で先鞭をきって（倉敷）労働科学研究所を 1921 年に創設した日本において、その設立時の唯一の心理学系研究者である桐原葆見が始めた産業心理学の内容をあげるまでもなく、産業心理学の内容は、①ヒトーヒト、②ヒトーモノ心理学に 2 大別される。しかしながら、今日の産業心理学テキストの多くは、ヒトーヒトのことを中心に言及している。これでは、今日の労働におけるクライアント中心の産業心理臨床にはなかなか得ない。心理学者の松本亦太郎が human engineering を日本語に置き換えて 1920 年に人間工学と邦訳した。そしてその直後、田中寛一が人間工学の最初の本を 1921 年に公刊した。言わずもがな、田中寛一は田中ビネー検査の創始者である。わが国の心理学研究の初期の段階から、ヒトーモノ研究は産業系心理学のレパートリーであった。

さらにわが国の心理学系学会活動の歴史からみれば、日本で最初につくられた心理学系学会は関西心理学会であった。このわが国最初の心理学会は、当初、京都、大阪、倉敷、名古屋で学会が開催された。そして同年、少しおくれて日本心理学会が発足した。しかしながら、この心理学会は 2 年に 1 度の学会開催頻度であったのだ。関西心理学会がどうして倉敷で開催されたのか？ それは倉敷労働科学研究所が倉敷でスタートして、その研究所の研究員のひとりが、心理学者の桐原葆見であったからだ。わが国の心理学研究史には、黎明期から産業心理学の研究があったのだ。

2. 真の原因への解明努力：労働起因性疾患や労働時に配慮すべき疾患

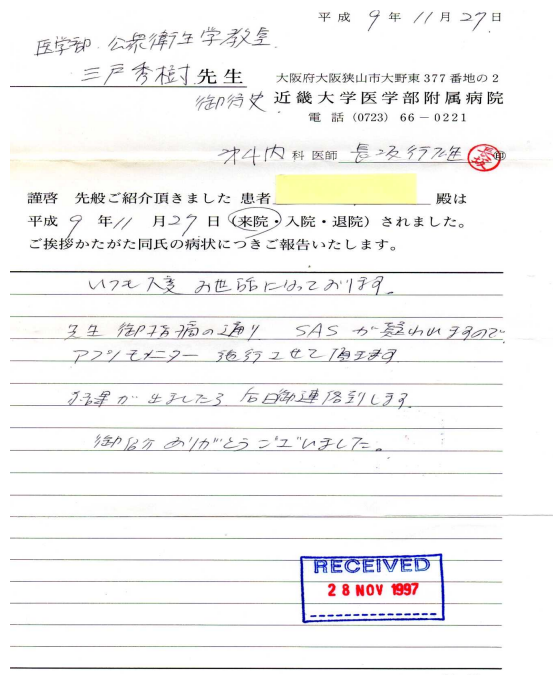
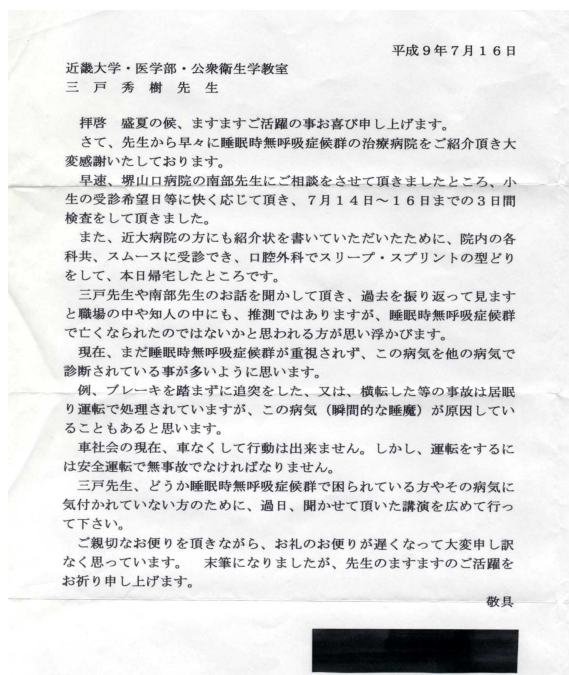
仕事に、ウトウトと寝てしまう労働者がいるが、その仕事のひとつは、①銀行のテラーである。この銀行員は、お客との接客中に、目の前で眠ってしまうのである。もう一つは、②トラックやタクシー運転手等が、運転中に居眠り運転をして追突事故につながるケースである。当該事業所における労務担当者から、「おかしな行動をする社員がいるので、対応・対処する基本的な指示・示唆が欲しい」と相談を受けた。

上記 2 ケースの労働者の上司は、本人へ何度注意しても眠るとか、過度の注意散漫状態は、精神的におかしいと考えられてしまい、精神科ないしは診療内科を受診する指示が出た。しかし担当の精神科医は、「いろいろと精査したが、精神的にはどこにもおかしいところは見つかりませんでした」と返答してきた。結局原因が分からなくて、病院各科のたらい回しが始まった。そして、ある内科で睡眠時無呼吸症候群（SAS）の可能性が指摘されたのだ。

トラック運転手の場合、たとえ居眠り運転で追突しても、その折の事故調書の記載は、ドライバー自身が車内でモノを落として、それを拾う際に前方をよく見ていなくて追突をしたと書かれている。現行の運転免許制度は点数制を採用しているため、プロドライバーは大きく点数が引かれるような供述は決してしない。このことは、運転中にウトウトを眠ってしまったとしても、その通りには供述しないことを意味し、少ない点数になるように言うのである。自動車事故の型別データからは、「いねむり運転」ではなくて、いわゆる「前方不注視」の事故となってしまうのだ。この型別事故データから、当時の運輸省はすべてのトラック後部に黄色の反射板を取り付けることを義務化した。しかし、この義務化変更の前後で、トラックの追突事故は顕著に減ることはなかった。真の事故実態は、前方不注視ではなくて、「居眠り運転」だったのである。

プロドライバーを対象に実施する運行管理者講習会や、一般事業所における一定台数以上の社有車を保有する場合に実施される安全運転管理者講習会等、さらには都道府県単位の自動車運転免許試験場における処分者講習会などで、睡眠時無呼吸症候群について詳しく語った。講

習会々場や受講事業所等から、以下の左の感謝レターのような反応があった。そして右は、クライアントを医療現場へ紹介した際の担当医からの応答例である。



2003年2月26日にJR西日本山陽新幹線の運転士が、福山駅を定時発車後、所定速度で運転中に約8分間居眠り状態となり、岡山駅に到着した際、新幹線がATC（自動列車制御装置）の動作により所定停車位置の約100メートル手前で自動停止するという事案が発生した。後日、その原因が運転手の睡眠時無呼吸症候群であることが判明した。この2003年の事故を契機として、国民には広く睡眠時無呼吸症候群が知られることになった。加えて、銀行員のケースもSASを原因としていることが判明した。

ここにあげた問題をメンタルの課題であると解し、カウンセリング対応に終始しても何ら解決には至らなかった事例である。産業系心理臨床家は、あらかじめかなり幅広い知識を持たないといけないことを示している。

(文責：三戸秀樹)

ニュース

●5月13日に、枚方市にある「おおさかパルコープ・物流センター」における学部学生の実習(23人)を実施しました。内容は、①現場労働を見て説明を受けること(=実労働を知ること)、②この種労働の歴史的変遷について学ぶこと、③当事業所で活動する公認心理師からの話を聞くことの3本だて実習を行いました。

本会報のVol.2(2)の「欠落した教育」を補完する系譜—大阪労働学校、(財)労働安全衛生研修所、そしてMHC—において、歴史的な流れについて触れています。本MHCのルーツにあたる大阪労働学校の校長は、賀川豊彦でした。そして賀川は、日本における生活協同組合を神戸に創設した人でした。おおさかパルコープとMHCルーツに共通した人物を想起し、えにしを感じた実習でした。

●旧優生保護法(1948～1996年)下における強制不妊手術の違法性に関する裁判が最高裁で行われた。国は訴える期限(除斥期間)を越えていることで正面切った議論をさげ、幕引きをはかった。しかし最高裁は、訴え期限以前の問題として扱い、公序良俗に反する、すなわち立法

段階から違憲であると国敗訴を7月3日に決めた。この裁判における大阪訴訟の弁護団団長である藤原精吾・弁護士は、MHC 実習で労働系について講じていただいている講師である。

●原爆開発の物理学オープンハイマーの映画「オープンハイマー」が3月29日から日本で上映された。オープンハイマー(1904-1967)は、大阪大学理学部を訪れている。その折りには、当会報・編集長の父・三戸左内は、阪大理学部物理学科の第2期生の学生で、英語が堪能だったので、才氏の通訳として学内を案内をした。戦後、日本経済新聞が才氏を招待して講演会を開いた。その講演会でも父が通訳をした。阪大で同僚だった伏見康治さんたちが、父に講演会通訳を依頼したのだ。しかし、講演原稿を父には渡しておらず、父は当日ぶっつけ本番で通訳をこなし、壇上のすぐ下の伏見さんは膝のうえの原稿をみながら聞いており、温かな父でも、さすがに怒りながら帰宅した。

事務局だより

●総会が6月8日(土)に開催され、2024年度~2025年度の2年間の新理事、新監事が決まりました。ホームページに掲載しています。当日には、実習に関します教務委員会も開催されました。

●会報のバックナンバーは、6月にホームページへアーカイブとしてまとめてアップしました。従前よりも、閲覧が容易になりましたので、御覧下さい。

●MHCのホームページ(www.mental-health-center.jp)を開く際に、右のQRコードを活用下さい。



編集後記

●会報発刊が遅れてしまいました。5巻の1号と2号が合併号となりましたこと、お詫び申し上げます。

●「アインシュタインの墓碑銘ー関学心理とア氏ー」のなかに記した三宅進先生は、16歳の少年時代に非常に過酷な経験をされている。それは岡山空襲のあとに、親族は父親の博先生と進少年の二人だけで、祖父母の抱き合った焼死体を大学校庭で茶毘に付したのである。この過酷な経験を、進先生から聞くことはただの一度も無かった。

小生宅では、広島市中に三戸医院があって祖父・玄三が医療にあたっていた。医院から数キロのところへ原爆が落とされた。医院はさいわい広島平野の小さな山影に位置し、直接の熱線からは陰になった。しかし、薬局の壁は爆風で抜けてしまった。直後からの医療活動は、祖父・玄三と父・左内が市中であたった。医薬品はすぐ払底し、同居していた従兄弟は市中の学校へいったきりで、行方不明になってしまった。この市中の地獄絵状態について、祖父と父から聞かされたことは一度も無かった。

後年、大学生時代の夏に、父から「原爆の時のにおいがする」と言われたことがある。それは近所に5~6匹いただろうか、野犬の群れがあらわれ、近所の誰かがその野犬へ毒入りエサを与えた。すべての野犬が薬殺され、死体があちらこちらに散在することになった。8月のことだったので腐敗が早く、父は「秀樹、原爆の時のにおいがする」と言った。一緒に来いと言われて、二人でシャベルをもって二オイのもとを探し、一部白骨化した頭蓋骨に群がるウジを脇目に、穴を掘って犬の死体を次々と埋めた。この埋葬作業は、大学生の自分と父と二人だけで行った。

ここにおいて、上記三宅父子の行為と共通したもの、すなわち「一族としての過酷な行為は、父親と年長者の長男だけで処理をする」と感じたのは、筆者だけだろうか。

(編集子)